

会告 Ⅲ
第4回認定輸血検査技師試験結果

認定輸血検査技師制度協議会
協議会会長 湯浅 晋治
審議会会長 田村 眞
試験委員長 大戸 斉

2000年8月26日～27日に昭和大学を会場に行われた第4回認定試験は以下の通りである。

1. 試験の概要

受験申請者 239名
受験者数 実技試験 229名
筆答試験 230名

筆答試験は概ね良く出来ていた。

実技試験のうち、血液型検査と不規則抗体同定検査では個人間の実力差が大きかった。

A. 筆答試験 レポート（カリキュラム委員会）加味後の点数

最高点 95.4
最低点 35.1
平均点 70.0

輸血による凝固因子の改善効果予測の計算が出来なかった。献血時の問診の目的をきちんと理解していないのが目立った。

B. 実技試験

1) 血液型（満点60点） 最高点 57
最低点 -32
平均点 40.5

検体取り違いや、血液型判定のミス（O型をAB型と判定など）は大きく減点（-30点）した。5人がこれに該当した。指示に従って検査しない、試薬滴下などを指示書通りにしない、試験管に番号などを記入しない、検査の判定ミス、free cell 存在の見逃し、結果の解釈が正しく出来ないなども減点の対象となった。

2) 不規則抗体（満点30点） 最高点 30
最低点 -36
平均点 17.8

検体取り違いや単純検体のミス（直接クームス陽性を陰性に判定）などは大きく減点（-30点）した。11人が該当した。検体や試薬の取り扱いを指示書通りにしない、2つの検体を混ぜて検査する、試験管に番号などを記載しない、検査の判定ミス、結果の解釈が出来ないなども減点した。

3) 血小板抗体（満点12点） 最高点 12
最低点 5.5
平均点 11.2

一部の受験生を除き、良く出来ていた。

4) 実技試験合計（100点満点に換算）
最高点 92.2
最低点 1.7
平均点 68.2

C. 総合判定

筆答試験と実技試験をともに合格した受験生は101名（44%）であった。

2.試験の基本方針

- 1) 試験委員は公正であることを貫き、決して試験内容に関する情報が漏洩しないようにした。
 - ・受験生の研修に携わらない
 - ・電話でのやり取りにも注意した
 - ・他分野の試験内容は互いにわからない様にして準備した
- 2) 公平であることを心掛け、受験生に有利不利が生じないようにした。
 - ・東京都内からの試験評価委員は出来るだけ少なくした
 - ・受験生と評価委員は互いに面識が無いように組み合わせた
 - ・実技検体は難易度の組み合わせが平等になるようにした
 - ・遠心機の性能など、繰り返し予行演習して確認した
 - ・いわゆる“引っ掛け問題”は極力避け、実力が反映されるようにした
- 3) 敏速であることを目指し、試験期間中に主な評点作業を終了した。